岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和５年５月８日（月）　第３８号

大樹のこころ

委員会活動で文化を

新型コロナウイルス感染症への対応が大きく変わりました。学校生活もようやく普通に戻ると嬉しく思っています。この対応措置の変更を受けて、本校では全校児童が体育館に集まっての「全校朝会」が実施されました。これまで朝会は放送で行っており、全校児童が揃うのは久しぶり。６００名近くの子供が集まると壮観で、学校全体の一体感を感じます。子供たちの口元を見ると、マスクを着用している子が７割程度と言ったところでしょうか。すでに着用義務がなくなり個人判断となっていましたが、ＧＷ前までは着用率が９割ほどでした。それが少し減ったようです。まだ高学年の着用率は高いですが、５類に引き下げられたことで、社会の空気も変わってきたことを実感しました。

さて、本日の全校朝会では任命式が行われました。高学年のクラスの学級代表と、各委員会の委員長・副委員長の任命です。放送での任命と違って緊張感があります。児童会担当の先生が、任命される子の名前を読み上げると、大きな返事と共にその場に立ち上がります。すると全校の視線が、その子に注がれます。この視線は「憧れの眼差し」でもあります。おそらく視線を受けた子は、自分の責任の重さを実感したことでしょう。委員会やクラスを代表して、二人の子供が全校児童を前に決意表明をしてくれました。とても立派な姿でした。

自分は、委員会活動をとても大切に考えています。学校というのは、それぞれ文化があります。文化は学校独自の行事によって創られることが多いものですが、それはあくまで教師主体です。これでは面白みに欠けてしまいます。文化は、子供たちが創造していくものでありたいと思います。子供の創造を生かせる活動が委員会です。一般的に委員会活動と聞くと「当番活動」をイメージしてしまいます。美化委員会が掃除道具の整頓をチェックしたり、保健委員会がアルボース石鹸の補充を行ったり、図書委員会が本の貸し出しを行ったりという常時活動が行われているからです。

しかし、これだけでは、ちょっと寂しい。各委員会が知恵を絞り、学校生活が楽しくなるような活動を考えてほしいと期待しています。例えば、今年は創立１５０周年という記念すべき年。これとのコラボ企画を考えるのも楽しいのではないでしょうか。行事というものは一過性です。行事がある時には学校が活気づきますが、それが終わると代わり映えのない日々に逆戻り。これは持続可能性に欠けたものです。日々の生活の中に、子供たちが楽しさを感じるものや、その活動を通して成長できるものが欲しいと思っています。「委員会活動で文化を」を合言葉に、創造性豊かな活動が展開されていくことを期待しています。

岡崎市シルバー人材センターの方から雑巾の寄贈がありました。児童会の代表の子が受け取りました。大事に使わせていただきます。